



INDEX

株主の皆さまへ To Our Shareholders 1.2

売上高
経常利益
当期純利益

連結事業の概況 Business Results 3.4

楽器事業
AV・IT事業
電子機器・電子金属事業
リビング事業
レクリエーション事業
その他の事業

特集 Special Topic 5.6

業務用音響事業

トピックス Topics 7.8

新商品 New Products 9 ~ 12

グランドピアノ「Sシリーズ」
サイレントピアノ「YM5SC」
エレクトーン「STAGEA mini」
電子ピアノ「P-70/P-140」
エレキギター「SG3KY」
ポータブル音声拡張システム「STAGEPAS300」
システムキッチン「berry」
オンラインサービス「My Sound」「プレーヤーズ王国」
「ヤマハ ミュージックレッスン オンライン」
ホームシアター「シネマステーションS30」
ゴルフクラブ「inpresX」

連結財務諸表 13.14

Consolidated Financial Statements

単独財務諸表 15

Non-consolidated Financial Statements

株式の状況 16

Stock Information

会社の概要 17

Corporate Outline

株主メモ 18

Shareholders Information

To Our Shareholders 株主の皆さまへ

株主の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
当社第182期(2005年4月1日から2006年3月31日まで)の営業の状況についてご報告申し上げます。

当期におけるわが国経済は、企業収益の好調さを背景に、雇用環境の改善が進み、個人消費や設備投資、輸出が堅調に推移しました。海外の景気は、米国、中国その他アジア諸国で拡大が続き、欧州でも緩やかな回復傾向が見られました。

このような状況の中で当社グループは、中期経営計画「YSD50」^{ワイエスディーゴゼロ}の目標実現に向けて諸施策を実施してまいりました。

顧客のライフスタイルに合わせた新しいコンセプトの音楽教室や店舗の開設を進め、国内楽器市場の活性化に取り組んだほか、中国でも、音楽教室事業を開始し、更なる中国市場開拓のための環境整備を行いました。また、設備音響市場での事業拡大を目指して米国に設備音響販売のための現地法人を設立しました。

技術開発力、商品企画力の向上に努め、それぞれの事業分野において多くの新商品・サービスを市場に投入しました。音とネットワークに関する独自技術を活かした新たな商品群の提案を行っていくために、サウンドネットワーク事業部を設置しました。

製造改革では、生産性の向上とピアノ製造における技術・技能の伝

承を図るため、国内ピアノ生産拠点を2011年までに、段階的に掛川工場に集約することを決定しました。業務・事業構造改革につきましては、引き続きSCMシステムの構築、スタッフ部門の効率化、不採算事業の再構築に努めました。また、環境ISOなどの環境問題にも積極的に取り組み、2005年5月末には当社国内生産拠点のすべてにおいて廃棄物ゼロエミッションを達成しました。

販売の状況につきましては、楽器事業、リビング事業は売上増加となりましたが、電子機器・電子金属事業が大幅な売上げ減少となりました。その結果、当連結会計年度の売上高は5,340億84百万円(前期比0.0%増加)となりました。

損益につきましては、半導体の売上げ減少と利益率の低下により、経常利益は352億44百万円(前期比14.7%減少)、当期純利益は281億23百万円(前期比42.8%増加、ただし、前期は、固定資産の減損に係る会計基準の早期適用による特別損失と厚生年金基金の代行部分の過去分返上に伴う特別利益の差額として127億76百万円の損失を計上しています。)となりました。

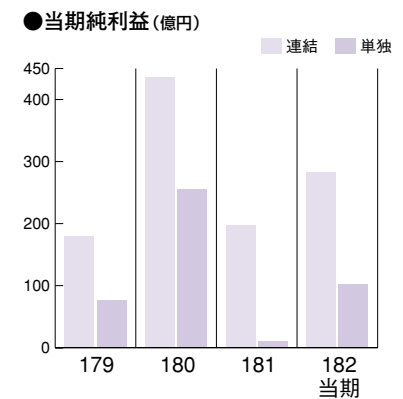
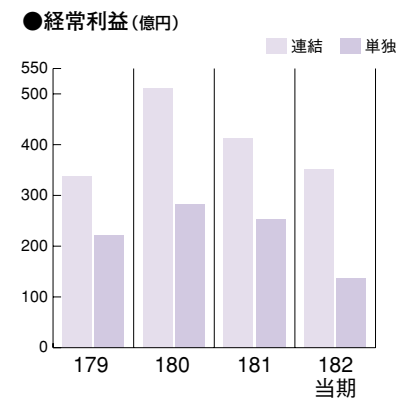
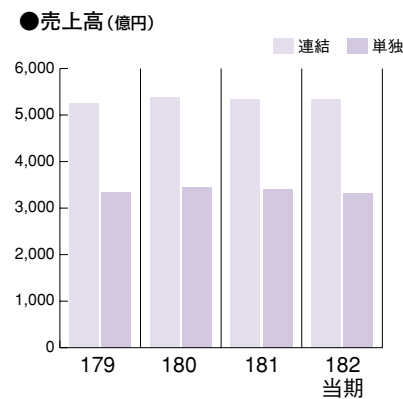
当社グループは、中期経営計画「YSD50」^{ワイエスディーゴゼロ}において、高水準の利益を安定的に創出し、持続的な発展を可能とする経営構造の実現を目指し、下記の課題に取り組んでおります。



- (1) 持続的・安定的な高収益構造の確立。全ての事業の収益力を強化し、中でも楽器事業の収益性を大幅に高めることでグループ全体として安定的な高収益体質を構築します。
 - (2) 独創的かつ高品質な商品開発/事業創出。各事業の中高級価格帯に注力し、ブランドポジションの優位性を高めると同時に、当社グループの総合力を活かした独創的な新規商品の提案および新規事業創出により新たな需要を開拓します。
 - (3) 企業の社会的責任を重視した経営。企業価値/ブランド価値の持続的な増大・発展を目指すために経済面、環境面、社会面での求められる責任を果たすとともに、継続的改善のためのマネジメントシステムを整備してまいります。
- 株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2006年6月
代表取締役社長

伊藤修二



連結事業の概況

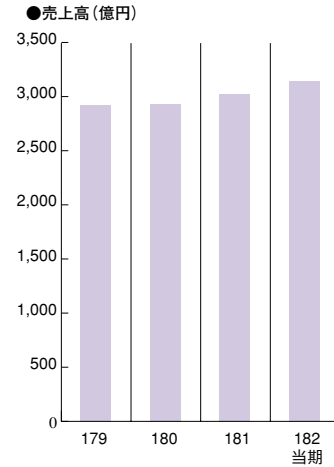
楽器事業

ピアノは、米国のグランドピアノ販売が好調に推移し、また中国でも伸長したことにより、売上げ増加となりました。電子楽器は、エレクトーンが大幅な売上げ減少となりましたが、電子ピアノ「P-70／140」やポータブルキーボード「Tyros2」が売上げを伸ばしました。また、音響機器は、「M7CL」等のデジタルミキサーが好調に推移し、欧米を中心に売上げ増加となりました。管・弦・打楽器は、管楽器が売上げを伸ばしました。

教室収入につきましては、音楽教室では、新規教室を開設し、生徒募集に注力した結果、売上げ増加となりました。また、英語教室でも着実に売上げを伸ばしました。コンテンツ配信収入は、「着うた」や広告収入の伸長により売上げ増加となりました。

以上により、当事業の売上高は3,140億78百万円（前期比3.8%増加）、営業利益は141億32百万円（前期比0.4%減少）となりました。

■主要連結子会社
 (株)ヤマハミュージック東京他販売子会社10社
 Yamaha Corporation of America
 Yamaha Canada Music Ltd.
 Yamaha Music Holding Europe G.m.b.H
 Yamaha Music Central Europe G.m.b.H
 Yamaha-Kemble Music (U.K.) Ltd.
 Yamaha Musique France S.A.S.
 P.T.Yamaha Music Manufacturing Asia
 雅馬哈楽器音響(中国)投資有限公司
 天津雅馬哈電子楽器有限公司
 杭州雅馬哈楽器有限公司
 ■主要製品
 ピアノ、電子楽器、管・弦・打楽器、教育楽器、音響機器、防音室、音楽教室、英語教室、コンテンツ配信、調律

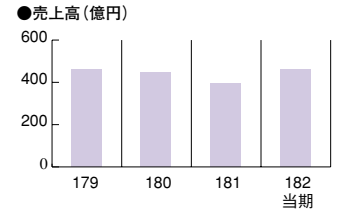


リビング事業

ショールームを拡充し、リフォーム事業の強化に取り組みました。人造大理石シンクを採用したシステムキッチンが好調に売上げを伸ばしました。

以上により、当事業の売上高は452億14百万円（前期比5.5%増加）、営業利益は11億69百万円（前期は営業損失24百万円）となりました。

■主要連結子会社
 ヤマハリビングテック(株)
 ■主要製品
 システムキッチン、システムバス洗面化粧台

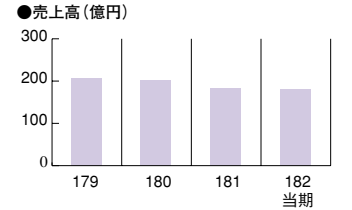


レクリエーション事業

宿泊収入は順調に推移したものの、婚礼収入の減少等により、売上げ減少となりましたが、主に減価償却費の減少により損益は改善しました。

以上により、当事業の売上高は180億13百万円（前期比1.5%減少）、営業損失17億89百万円（前期は営業損失22億53百万円）となりました。

■主要連結子会社
 (株)キロロアソシエイツ他5社
 ■主要製品
 観光施設・宿泊施設・スキー場及びスポーツ施設の経営

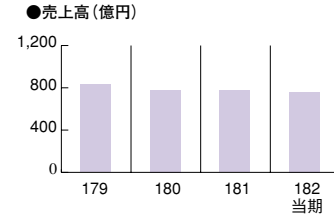


AV・IT事業

オーディオは、「YSP」シリーズがヒット商品となりましたが、ホームシアター市場の低迷等により、売上げ減少となりました。情報通信機器は、ルーター市場での競争激化等により、売上げ減少となりました。

以上により、当事業の売上高は759億39百万円（前期比2.3%減少）、営業利益は21億13百万円（前期比42.1%減少）となりました。

■主要連結子会社
 ヤマハエレクトロニクスマーケティング(株)
 Yamaha Electronics Corporation,USA
 Yamaha Elektronik Europa G.m.b.H
 Yamaha Electronics Manufacturing (M) Sdn.Bhd.
 雅馬哈楽器音響(中国)投資有限公司
 ■主要製品
 オーディオ、情報通信機器

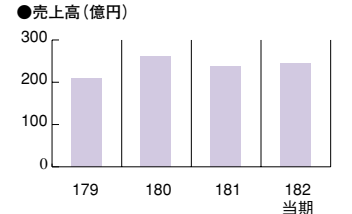


その他の事業

ゴルフ事業では、新ゴルフクラブ「inpresX」が好調に推移しました。FA機器事業は堅調に推移し、金型・部品事業も、売上げ増加となりました。自動車用内装部品事業は、新規モデル向けが順調に伸びたことから、売上げ増加となりました。

以上により、当事業の売上高は246億71百万円（前期比4.7%増加）、営業利益は5億82百万円（前期比245.4%増加）となりました。

■主要連結子会社
 ヤマハファインテック(株)
 ■主要製品
 ゴルフ用品、自動車用内装部品、FA機器、金型・部品

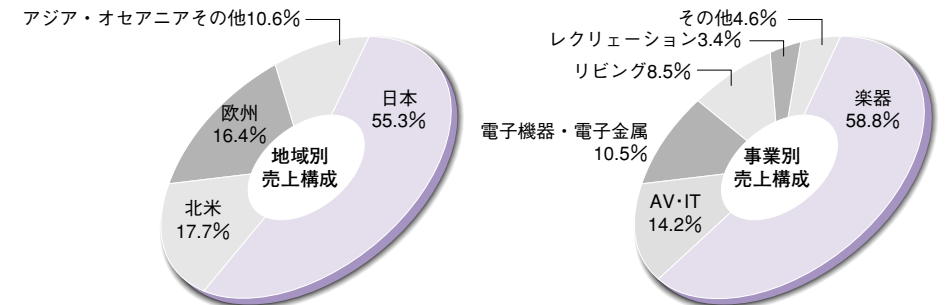
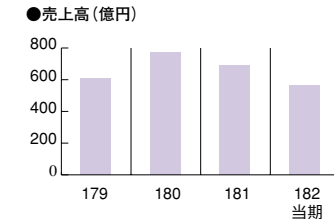


電子機器・電子金属事業

電子機器事業は、携帯電話用音源LSIの需要減少と低価格化の進行により、大幅な売上げ減少となりました。電子金属事業は、半導体市場の回復により売上げを伸ばしました。

以上により、当事業の売上高は561億67百万円（前期比18.7%減少）、営業利益は79億27百万円（前期比60.3%減少）となりました。

■主要連結子会社
 ヤマハ鹿児島セミコンダクタ(株)
 ヤマハメタニクス(株)
 ■主要製品
 半導体、特殊合金



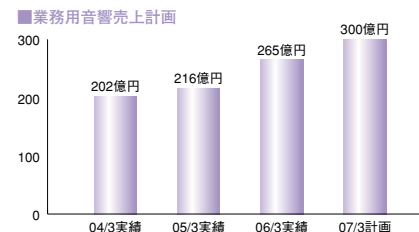


M7CLのタッチパネル

ヤマハはデジタル技術を活かし、コンサートホールや劇場など、世界の業務用音響機器市場で成長戦略を展開しています。

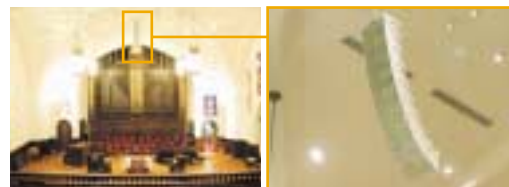
ヤマハの業務用音響事業

現在、業務用音響機器市場では、当社が誇るデジタルミキサーの普及が本格化しています。この機会を捉え、欧米などで積極的に拠点を整備し、総合的なソリューション企業として成長を目指しています。2007年3月期には業務用音響事業の売上を300億円とする計画で活発な事業展開をしています。



事業展開状況

- 2005年2月 北京にヤマハ・オーディオ・クリエイティブ・センターを設立。
北京オリンピックを控える放送局などへの販売とサポートを展開。
- 6月 業務用音響スピーカーの代表的メーカー、ネクソ社(仏)と資本提携。
商品の共同開発と米国におけるネクソ・スピーカーの販売代理権を取得。
高出力スピーカーの商品力を強化。
- 12月 ロンドンに業務用音響のサポートセンターを開設。
欧州各国の技術者の育成や顧客サポートを実施。
- 2006年4月 「ヤマハ・コマーシャル・オーディオ・システムズ・インク」を設立。
最大市場の北米での事業強化のためロサンゼルスに業務用音響機器の販売子会社を設立。



ネクソ社は、独創的な設計と先進的な技術で高い評価を得ている、大規模・高出力なSR/設備用スピーカのメーカーです。写真は、米国の教会に設置させたライン・アレイ・スピーカー・システム
Installed by R&D Industries(USA)

高音質・多機能、安心して使える信頼の ヤマハデジタルミキサー

ヤマハの業務用音響事業の中核となるのがデジタルミキサーです。デジタル信号で音声処理するのでノイズのない高音質なミキシングができます。リバーブなど高精度のマルチエフェクトやイコライザーを内蔵。またメモリー機能により、1つの操作で瞬時に多くのつまみを動かすことができます。場面が変わる演劇や、グラミー賞など登場ミュージシャンの多いイベントでは大活躍します。

プロフェッショナルミキサーの最高峰

PM1D

プロのミキサー・エンジニアから絶大な評価を得ている「PM1D」。世界各国の著名なコンサートホールや劇場に納入され、多くのイベントやコンサートで活躍しています。そのパフォーマンスは特筆、グラミー賞では従来14台のミキサーを使用していましたが、PM1Dはたった2台でこなしました。



100年以上の歴史をもつカーネギーホールに設置されたPM1D

快適な操作性を実現

M7CL

2005年10月発売

デジタルミキサーは操作が難しい、そんな先入観を覆す操作性を実現しました。中央部に操作機能を集中させ、大型のタッチパネルを採用することで、リアルタイムの操作性が画期的に向上しました。北米で大きな市場を占める教会をはじめ、各種施設に提案できる新商品です。

デジタルミキサーの定番

PM5D

「PM5D」は、多くの入出力端子や優れた機能をコンパクトなボディに集約したオールインワンモデルで、中規模の施設やコンサートツアーなどに最適です。ライブ用途のデジタルミキサーとしてデファクトスタンダードとなっています。



PM5D



PM1D



Topics

トピックス



EXPOドーム



EXPOホール



大地の塔の音具



大地の塔



キッコロ

モリゾ



「ヤマハ・ジャズ・フェスティバル」で 上原ひろみが熱演

ハママツ・ジャズ・ウィーク最終日の2005年6月12日、アクティビティ浜松大ホールにジャズピアニスト上原ひろみが登場。浜松市出身で、ヤマハ音楽教室で学び、現在はニューヨークを中心に世界各国で活躍する上原ひろみの、激しく、優しく、変幻自在な演奏に2,000人を超える満員の聴衆がジャズを存分に楽しみました。

愛・地球博 ヤマハグループの力を結集して 「愛・地球博」に協賛、サポートしました

EXPO 2005 AICHI JAPAN
2005年3月25日より愛知県で「愛・地球博」が開催されました。ヤマハはメインイベント会場のEXPOドームやEXPOホールに音響設備を提供したほか、EXPOドームの音響障害の改善対策を行いました。また、開会式典でフジ子・ヘミングが演奏するピアノやトヨタグループ館でロボットが演奏する管楽器もヤマハの楽器でした。

製造開始40周年目に管楽器生産1,000万本を達成

ヤマハは1965年に第一号のトランペットを製造開始以来、フルートやサクソフーンなど様々な管楽器を製造し、2005年5月25日に生産1,000万本を達成しました。当社では、設計にいち早くコンピュータを導入、アトリエを東京、フランクフルト、ウィーンなどに開設して、世界のトッププレーヤーの意見を取り入れながら普及品から高級品まで幅広く生産しています。



豊岡管楽器工場のスタッフと
生産1000万本目となった
ヤマハトランペット



ヤマハミュージック東海 浜松店がグランドオープン

2006年3月11日にオープンした新浜松店は、1～3階が楽器・楽譜・CD売場、5～7階は幅広い年代のニーズに応える音楽教室。8階ホールでは、オープン時から一ヶ月間、一流アーティストによる数々の記念コンサートを開催。美しい夜間のライトアップと併せて、浜松市中心街に新たな彩りを添え、「音楽文化の発信拠点」としていきます。



ライブの感動が満喫できる
クラシック専用ホール



1Fの管弦打
楽器売場



快適で落ち着いた
雰囲気の教室

ヤマハ・デジタル・サウンド・プロジェクター 「YSP-800」が欧州EISA賞を受賞

EISA (欧州映像音響協会) は欧州18ヶ国の映像音響機器専門誌の協会です。毎年優れた製品を表彰しています。今回ヤマハ「YSP-800」が「HT (ホームシアター) イノベーション・オブ・ジ・イヤー」を受賞しました。ワンボディの本体のみでリアルサラウンドが楽しめる画期的な技術が高く評価されました。



ヤマハ音楽教室が海を渡って上海に上陸。

日本の企業が多く出店している上海の久光百貨の7階にヤマハ音楽教室を開設しました。伝統的に芸術や文化が栄える上海を基点に、北京や広州などにも開設していく予定です。中国市場では年間25万台のピアノの需要があり、ヤマハは音楽教室の普及とともに、中国でのピアノの販売を増やしていきます。



父兄が熱心に見守るレッスン風景。
1人っ子政策のため子供の教育には熱心です。



香港そごう系列の上海久光百貨



教室の受付、生徒募集も順調に始まりました。

お求めやすい価格を実現したサイレントピアノ「YM5SC」

通常はアコースティックピアノとして演奏でき、消音機能時は、電子音源の音色をヘッドホンで聞けるサイレントピアノ。新商品は、電子音源メモリの容量が2倍になり音質が向上、キーセンサー精度が上がり鍵盤タッチをより繊細に表現できます。基本性能をアップしながら、お求めやすい価格としています。



エレクトーン入門モデル「STAGEA mini」を発売



2004年3月に発売したエレクトーン「ステージア」は数多くの新機能と優れた音色で高い評価をいただきました。新商品「ステージア ミニ」は入門モデルながら、豊富な音色と厳選したリズムパターンにより多彩な演奏が楽しめます。また、ヤマハ音楽教室に通うお子様等にはレンタル制度も用意しました。

S series

家庭用の最高級グランドピアノ「Sシリーズ」をモデルチェンジ

ヤマハコンサートグランドピアノの音を、家庭にも設置できるサイズでお楽しみいただけます。響板などの材料を厳選し、ピアノづくりの技術と経験を結集した「Sシリーズ」の新商品では、より深い響きの低音域と、洗練された響きの中音域を実現して、音質や表現力がさらに向上しました。



高品位な音とタッチ感を味わえるコンパクトでスタイリッシュな電子ピアノ「P-70/P-140」

スリムな軽量サイズとスタイリッシュなデザインで、本格的なグランドピアノの音色と繊細なタッチ感を味わえる電子ピアノです。基本性能を備えた「P-70」と、録音再生機能などよりハイグレードな「P-140」の2モデル。それぞれブラックとシルバーの2色から選べます。



P-140

ヤマハエレキギター加山雄三モデル「SG3KY」を限定製造

ヤマハは加山さんが映画「エレキの若大将」に主演したときにエレキギターを提供するなど、古くからのご縁があります。今回、加山さんのデビュー45周年を記念して、加山雄三モデルを限定製作しました。海をイメージさせる深いブルーのボディカラーとし、デザインやサウンドは、加山さんのアイデアや好みを取り入れた設計としています。



“いつでも、どこでも、ステージに” 高出力、高音質なポータブル音声拡張システム「STAGEPAS300」

着脱式のパワーアンプ付ミキサーと、2本のスピーカーのセットは、コンパクトサイズながら300ワットの高出力。リバーブやイコライザーを搭載し、アマチュアバンドのコンサートや小規模イベントなど、250名位までの聴衆対象の用途に対応できます。発売開始以来、国内外で人気を呼び、好調な販売が続いています。



人気のヤマハシステムキッチン「berry」に
ニューラインアップが登場

カウンターだけでなくシンクにも人造大理石を使用したヤマハシステムキッチンは、インテリア性が優れ、キズや汚れがつきにくくご好評をいただいています。

オープンキッチン
スクエアタイプ-U

家族や友人と調理を楽しめるオープンキッチンの新商品はコストパフォーマンスが高く、カウンターの奥行きが90cmのコンパクトサイズです。



ダイニング側はニースペースになっていて、座って簡単な食事をとることもできます。



キャビネットの扉はもちろん、マーブルシンクも6色から選べ、家具とのコーディネートが楽しめます。

コンパクト機能充実プラン

リフォームを検討中のご家庭におすすめの奥行きが60cmのシステムキッチン。シンクや扉の色も選べ収納も充実、食器洗い乾燥機をビルトインすることもできます。



窓前ウォール&フリー
スペースプラン

明るい空間で気持ちよく調理することを考えたユニバーサルデザイン。シンクの下がオープンスペースなので座って料理の下ごしらえができます。窓前の扉は半透明の樹脂製なので採光をささげりません。



ネット時代に対応する新しいオンラインサービス、続々開始!

音楽配信サービス「My Sound」をスタート
アマチュア楽曲配信「プレーヤーズ王国」も充実

ヤマハでは2005年12月にPC音楽配信サービス「My Sound」をスタート。中島みゆきらヤマハグループに所属するアーティストの楽曲3000曲、また、インディーズ楽曲の販売をしています。アマチュアミュージシャンが自分の演奏を無料でネット上で公開できる人気サイト「プレーヤーズ王国」でも、有料オプションを追加し、サービスを充実させました。



My Sound

プレーヤーズ王国



ネットによる大人向け音楽レッスン

「ヤマハ ミュージック レッスン オンライン」をスタートインターネットを利用し、自宅でいつでも、自分のペースで「ヤマハ大人の音楽レッスン」が受講できるサービスを開始しました。教科はピアノ・サクソフォンなど8教科。画面の動画や譜面などを見ながら運指や演奏法が学べ、初心者にも分かりやすい内容です。このオンライン・レッスンにより、楽器演奏者の拡大を図ってまいります。



ヤマハミュージックレッスン オンライン



アコースティックギター
コースのレッスン画面

ヤマハホームシアターシステム
「シネマステーションS30」

「シネマステーションS30」のフロントスピーカーは高さ8cmの横置タイプ。液晶テレビの画面の下にすっきりと設置できます。ヤマハの新技术「エアースラウンド」により、包みこまれるような自然なサウンド効果が楽しめます。また、AVセンターは縦にも横にも置けるコンパクトサイズです。



反発規制に対応したヤマハゴルフクラブ
「inpresX」を発売

2008年にゴルフ規則が改正され高反発クラブが規制されます。「inpresX」はその規制にいち早く対応したモデルです。「ダブルエリアフェース」により、反発エリアが当社比で約4倍に拡大しました。また、シャフルのしなりによりヘッドスピードを最大化して、高反発ヘッドを超える飛距離を実現しました。



● 連結貸借対照表の要旨

科目	182期(当期) '06年3月	181期 '05年3月
資産の部		
流動資産	209,381	225,581
現金及び預金	36,429	51,205
受取手形及び売掛金	72,613	73,688
棚卸資産	77,943	78,434
繰延税金資産	16,922	16,495
その他	7,806	7,870
貸倒引当金	△2,333	△2,114
固定資産	310,595	279,996
有形固定資産	150,990	146,428
償却資産	84,754	80,978
土地	63,772	64,050
その他	2,462	1,399
無形固定資産	3,545	1,026
投資その他の資産	156,059	132,541
投資有価証券	132,902	101,015
繰延税金資産	14,087	17,425
その他	9,939	15,265
貸倒引当金	△869	△1,165
資産合計	519,977	505,577

単位:百万円

科目	182期(当期) '06年3月	181期 '05年3月
負債の部		
流動負債	117,047	145,820
支払手形及び買掛金	37,153	37,686
短期借入金	17,147	17,825
一年以内返済の長期借入金	5,132	22,259
未払費用及び未払金	43,098	45,167
未払法人税等	3,758	12,603
諸引当金	3,963	3,411
その他	6,795	6,867
固定負債	82,452	80,722
長期借入金	6,195	6,514
再評価に係る繰延税金負債	17,742	14,346
退職給付引当金	27,978	28,269
長期預り金	27,577	28,917
その他	2,957	2,673
負債合計	199,499	226,542
少数株主持分		
少数株主持分	4,472	3,834
資本の部		
資本金	28,534	28,534
資本剰余金	40,054	40,054
利益剰余金	236,913	212,340
土地再評価差額金	18,426	22,453
株式等評価差額金	15,470	7,364
為替換算調整勘定	△23,091	△35,267
自己株式	△302	△279
資本合計	316,005	275,200
負債、少数株主持分及び資本合計	519,977	505,577

● 連結損益計算書の要旨

科目	182期(当期) '05年4月~'06年3月	181期 '04年4月~'05年3月
売上高	534,084	534,079
売上原価	341,886	335,705
延払未実現利益	69	221
販売費及び一般管理費	168,132	162,899
営業利益	24,135	35,695
営業外収益	17,612	12,155
営業外費用	6,503	6,548
経常利益	35,244	41,302
特別利益	1,874	27,391
特別損失	1,276	35,178
税金等調整前当期純利益	35,842	33,516
法人税、住民税及び事業税	8,922	14,497
法人税等調整額	△1,736	△1,088
少数株主利益	532	409
当期純利益	28,123	19,697

単位:百万円

● 連結剰余金計算書の要旨

科目	182期(当期) '05年4月~'06年3月	181期 '04年4月~'05年3月
(資本剰余金の部)		
資本剰余金期首残高	40,054	40,054
資本剰余金期末残高	40,054	40,054
(利益剰余金の部)		
利益剰余金期首残高	212,340	203,485
利益剰余金増加高	29,429	19,886
利益剰余金減少高	4,857	11,031
利益剰余金期末残高	236,913	212,340

単位:百万円

● 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

科目	182期(当期) '05年4月~'06年3月	181期 '04年4月~'05年3月
営業活動によるキャッシュ・フロー		
営業活動によるキャッシュ・フロー	25,510	39,588
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資活動によるキャッシュ・フロー	△18,104	△12,896
財務活動によるキャッシュ・フロー		
財務活動によるキャッシュ・フロー	△25,834	△8,306
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,783	1,099
現金及び現金同等物の増減額	△16,644	19,485
現金及び現金同等物の期首残高	50,393	31,245
新規連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高	1,685	—
除外連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高	—	△337
現金及び現金同等物の期末残高	35,434	50,393

単位:百万円

単独財務諸表

● 単独貸借対照表の要旨

科目	182期(当期) '06年3月	181期 '05年3月
資産の部		
流動資産	79,469	104,118
当座資産	40,037	63,800
棚卸資産	25,816	26,396
その他	13,615	13,921
固定資産	221,043	213,952
有形固定資産	89,639	90,955
無形固定資産	99	103
投資その他の資産	131,304	122,894
資産合計	300,513	318,071

● 単独損益計算書の要旨

科目	182期(当期) '05年4月~'06年3月	181期 '04年4月~'05年3月
売上高	321,252	341,546
売上原価	243,413	247,455
延払未実現利益	69	218
販売費及び一般管理費	69,923	71,670
営業利益	7,986	22,638
営業外収益	6,462	3,079
営業外費用	498	573
経常利益	13,950	25,145
特別利益	1,753	23,973
特別損失	1,811	36,094
税引前当期純利益	13,892	13,024
法人税、住民税及び事業税	5,167	9,651
法人税等調整額	△1,517	3,108
当期純利益	10,242	264
前期繰越利益	4,796	3,774
土地再評価差額金取崩額	282	△10,607
中間配当額	2,063	1,547
当期末処分利益	13,258	△8,116

単位:百万円

科目	182期(当期) '06年3月	181期 '05年3月
負債の部		
流動負債	51,271	79,877
固定負債	67,193	65,402
負債合計	118,465	145,279
資本の部		
資本金	28,534	28,534
資本剰余金	40,054	40,054
利益剰余金	89,038	83,255
土地再評価差額金	10,415	14,255
株式等評価差額金	14,263	6,926
自己株式	△258	△235
資本合計	182,048	172,791
負債及び資本合計	300,513	318,071

● 利益処分

単位:百万円

科目	182期(当期) '05年4月~'06年3月
当期末処分利益	13,258
特別償却準備金取崩高	1
圧縮記帳積立金取崩高	170
買換資産取得特別勘定積立金取崩高	565
合計	13,995

これを次の通り処分する。

利益配当金(1株につき10円)	2,063
役員賞与金	80
(うち監査役賞与金)	(12)
特別償却準備金積立高	1
圧縮記帳積立金	301
買換資産取得特別勘定積立金	599
別途積立金積立額	6,000
次期繰越利益	4,950

(注) 2005年12月12日に、2,063百万円(1株につき10円)の中間配当を実施しました。

株式の状況

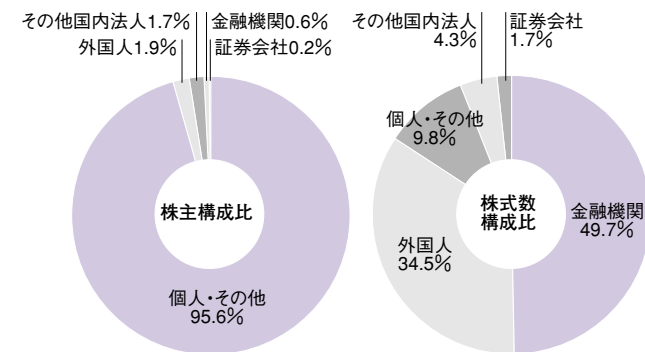
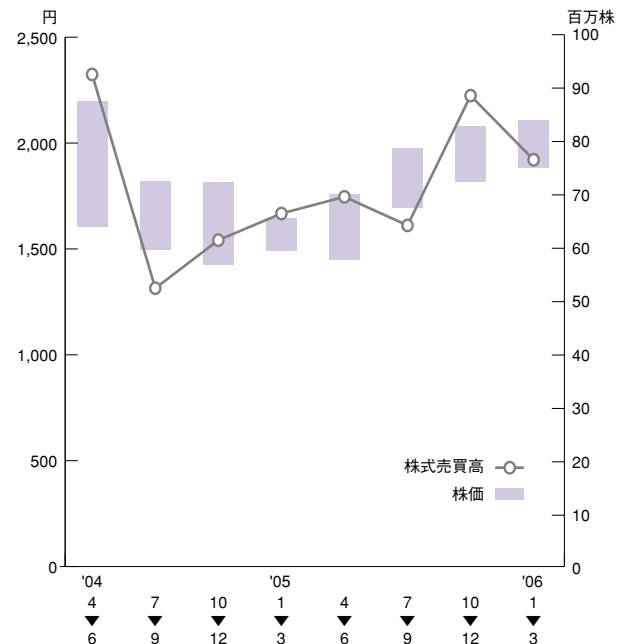
● 発行可能株式総数	700,000,000株
● 発行済株式総数	206,524,626株
● 株主数	16,803名
● 株主分布状況	

株主構成	株主数	株式数
個人・その他	16,065名	20,272千株
金融機関	100	102,691
その他国内法人	289	8,844
外国人	313	71,148
証券会社	36	3,567

● 大株主の状況

株主名	所有株式数	持株比率
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	19,073千株	9.24%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	16,748	8.11
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	11,331	5.49
三井住友海上火災保険株式会社	8,918	4.32
みずほ信託退職給付信託みずほ銀行口 再信託受託者資産管理サービス信託	8,779	4.25
株式会社静岡銀行	8,349	4.04
住友生命保険相互会社	7,300	3.53
日本生命保険相互会社	6,482	3.14
株式会社みずほコーポレート銀行	5,775	2.80
ノーザントラストカンパニー(エービーエフシー) サブアカウントアメリカンクライアント	4,317	2.09

● 株価および株式売買高の推移 (東京証券取引所)



(2006年3月31日現在)



会社の概要

●商号	ヤマハ株式会社 YAMAHA CORPORATION
●本店	〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10番1号
●設立	1897年10月12日(創業1887年)
●資本金	28,534,856,685円
●従業員数	19,621人(連結) 5,730人(単独)

※いずれも臨時従業員を含んでおりません。(2006年3月31日現在)

役員

●取締役	代表取締役会長	岸 田 勝 彦
	代表取締役社長	伊 藤 修 二
	常務取締役	加 藤 博 万
		黒 江 常 夫
	取締役	長 谷 川 至
		花 本 眞 也
		牧 野 時 久
		八 幡 泰 司
●監査役	常勤監査役	太 田 直 幹
		堀 越 美知夫
	監査役	三 浦 州 夫
		和久田 晴比古
●執行役員	上席執行役員	梅 村 充
	執行役員	篤 田 勝 宏
		林 田 甫
		戸 部 儀 和
		高 橋 源 樹
		関 口 博
		田 丸 卓 也
		加 茂 幸 助
		新 美 幸 二
		岡 部 比呂男
		吉 良 康 宏
		小 原 辰 三
		佐 々 木 勉

(2006年3月31日現在)

株主メモ Shareholders Information

●事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
●定時株主総会の基準日	3月31日
●定時株主総会	6月
●期末配当の基準日	3月31日
●中間配当の基準日	9月30日
●単元株式数	100株
●公告の方法	電子公告によります。但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載いたします。 http://www.yamaha.co.jp
●株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
●同事務取扱場所	〒460-8685 名古屋市中区栄三丁目15番33号 中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店 証券代行部 0120-78-2031(フリーダイヤル)

●同取次所

中央三井信託銀行株式会社本店および全国各支店、日本証券代行株式会社本店および全国各支店

●その他

株式の名義書換、単元未満株式の買取請求、配当金のお支払いおよび諸届等のお問合せは、上記株主名簿管理人の事務取扱場所ならびに同取次所でお取扱いいたします。

なお、「証券保管振替機構」に預託されました株券についての諸届および手続等に関するお問合せは、お取引先の証券会社へお願いいたします。

住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求および配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、株主名簿管理人のフリーダイヤル0120-87-2031で24時間受付しております。



ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10番1号
Tel: 053(460)2800
Fax: 053(460)2802
URL: <http://www.yamaha.co.jp/>



この事業報告書は再生紙に大豆インキで印刷しました。